

きつとみんなよろこぶよ！

ピーター・スピーアー 〔作〕

松川真弓 訳

評論社 1987年 1200円



土曜の朝、お父さんとお母さんが出かけた後、子どもたちは、家のぬりかえという大仕事にとりかかるとにしました。家はごちゃまぜのペンキでぬられ、その上、ペンキだらけの子どもたちが歩いた後は、あらゆるものが色とりどりに染まります。子どもたちは、ぬりおわった家を眺めてご満悦ですが…。自由に家をぬっていく、ペンキまみれのきょうだいや、ぬりあげられた家の様子が愉快に描かれています。

きつねのホイティ

シビル・ウェッタシンハ 作

まつおかきょうこ 訳

福音館書店 1994年 1300円



おなかをすかせたホイティは、人間のふりをしておかみさんたちをだましごちそうにありつきます。おかみさんたちはだまされたふりをしていたのですが、うまくやると大得意のホイティは、おかみさんたちの悪口を歌います。これを聞いたおかみさんたちは、返しをしようと思恵をしばります。スリランカの小さな村に住む3人の元気のいいおかみさんと、くいしんぼうぎつねのホイティの愉快なお話です。

木はいいなあ

ジャニス＝メイ＝ユードリイ 作

マーク＝シーモント 絵

さいおんじさちこ 訳

偕成社 1976年 1000円



「木がたくさんあるのはいいなあ 木がそらをかかしているよ」という一文ではじまるこの絵本には、たくさんのお木と、そこで生活し、憩う人たちの様子が描かれています。夏は木陰で涼んだり、秋には落ち葉の上を転がったり、それから、ブランコや木登りだってできるのです。全体を通して、やさしくて頼もしい木の存在が、おらかな文章で表現されています。身近な木々に、そっと触れてみたくなる1冊です。